

## 日本留学フェア 2021 in Tashkent に参加

2021年8月19～25日の7日間にわたり、「日本留学フェア 2021 in Tashkent」が開催されました。

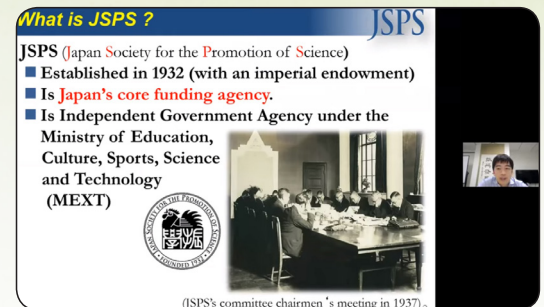
本イベントは、名古屋大学ウズベキスタン事務所が毎年開催しているもので、コロナ禍における本年は、8月にオンライン、11月に現地での対面開催が計画されました（日本留学海外拠点連携推進事業（筑波大学）との共催。のちに11月の対面開催は中止が決定。）当センターは本イベントの後援機関として、協力・参加し



ました。

本イベントには、日本の46大学・機関がオンラインで参加しました。参加登録者数は約590名、延べ参加者数は約1,750名となりました。参加者には、大学生・高校生の他に、大学教員・研究者や大学院生も多く含まれています。

開会式では、駐ウズベキスタン日本大使、ウズベキスタン高等・中等教育省副大臣から挨拶がありました。最終日の25日には成瀬副センター長から、JSPSの国際事業について、外国人研究者特別研究員（一般）を中心に紹介しました。参加者からは論文博士支援事業についての質問などがありました。ウズベキスタンから



は、過去にも二国間共同研究事業や外国人研究者招へい事業を通じて、少数ながら研究者の往来があります。今後、ウズベキスタンを含む中央アジアの優秀な研究者の間でJSPSの事業が広く認知され、1人でも多くの研究者が日本での研究の機会を得ることを望みます。

## 2021年度希平会総会・第1回連絡会を開催

2021年9月29日（水）に2021年度希平会総会および第1回連絡会を開催しました。

1年9ヵ月振りの開催となった今回は、オンライン開催（Zoomミーティング）により日本の大学本部からの参加を可能とし、コロナ禍の下での各参加機関の現状報告と今後の活動方針を共有しました。当日は31機関から65名が出席しました。

冒頭、総会で佐藤会長（広島大学）と川上副会長（創価大学）に引き続き役員をお願いしたい旨が提案され、異議なく了承されました。

佐藤会長から、コロナ過や安全保障問題など困難な国際情勢の下では

あるが、希平会を通じて、中国における日本の大学のプレゼンス向上に努めたいとの挨拶がありました。成瀬事務局長（JSPS北京研究連絡センター）から、来年の日中国交正常化50周年に向けて、各大学の国際交流における中国の優先度を高める方を検討してほしいとの発言がありました。

連絡会では、各機関ともオンラインを活用して、イベントの開催や留学生の受け入れを継続していること、日本人学生の派遣についてはいくつかの大学で多大な影響が出ていると



いう実態が明らかになりました。また、参加大学の中には、コロナ過により中国の事務所を閉鎖、または活動を休止している所もありました。

2021年9月現在、希平会は正会員39機関、オブザーバー8機関となっています。今後も現地での連絡会・セミナー開催を通じて活動を続けていく予定です。